

## コラム 80ー 歴史学者・アーノルド・トインビーの発言

イギリスの著名な歴史学者であるアーノルド・J・トインビーは、大東亜戦争開戦直後に行われたマレー沖海戦での日本軍による英国戦艦2隻の撃沈に関して、次のような発言をしています。(1968年3月22日付毎日新聞掲載)

「英国最新最良の戦艦2隻が撃沈されたことは、衝撃的な出来事であった。それはまた、永続的な重要性を持つ出来事でもあった。なぜなら、1840年のアヘン戦争以来、東アジアにおける英国の力は、この地域における西洋全体の支配を象徴してきたからである。1941年、日本は全ての非西洋国民に対し、西洋は無敵でないことを決定的に示した。この啓示がアジアの士気に及ぼした恒久的な影響は、1967年のベトナムに明らかである。」

また、トインビーは、1956年10月28日の英国のオブザーバー紙上で、「第二次世界大戦において、日本人は日本のためというよりも、むしろ戦争によって利益を得た国々のために、偉大な歴史を残したといわねばならない。その国々とは、日本の掲げた短命な理想である大東亜共栄圏に含まれていた国々である。日本人が歴史上に残した業績の意義は、西洋人以外の人類の面前において、アジアとアフリカを支配してきた西洋人が、過去200年の間考えられていたような『不死の半神』でないことを、明らかにした点にある。イギリス人もフランス人もアメリカ人も、開戦当初、ともかく我々はみな将棋倒しのようにやられてしまった」と述べています。